

小山内 時雄(おさない・ときお)

1、プロフィール

昭和 34(1959)年県郷土作家研究会設立、機関誌「郷土作家研究」創刊。昭和 40 年日本近代文学会青森支部設立。県近代文学館初代館長。柳田泉・板垣直子を継ぐ文学研究家。

<生没>

1915(大正4)年 10 月 21 日 ~ 2006(平成 18)年3月 27 日

<代表作>

歌集『若き日の巡礼』

『近代諸作家追跡の基礎』『葛西善蔵全集 全 4 巻』(編著)他

<青森との関わり>

弘前大学教授、八戸大学学長、県郷土作家研究会創立、県近代文学館館長として教育界・文化面に功績深く、地方文学史研究に光を当て切り開いた。

2、作家解説

父浩(弘前中学校教師)と母ひでの長男として弘前市若党町に生まれる。

弘前中学校時代より作歌、「水甕」に入り鈴木秀吉らと「しば苑」を出す。

旧制弘前高等学校時代は同文芸部短歌会をリードし改造社『新万葉集』に2首入選、「ポトナム」弘前支部を作る。

昭和 13 年、東京帝国大学文学部国文科入学。翌年「あさひこ」に移るが作歌より小説に情熱を傾け、弘高時代の友人野崎隆らと同人雑誌「新樹」を創刊し泉文彦の筆名で小説を書く。

16 年大学卒業、卒業論文は「新古今集の研究」、同 4 月大学院入学。雑誌統合のため「新樹」は「赤門文学」となり小説「曙覧の死」を発表。

17 年大学院在学中に現役兵として歩兵第五十二連隊入隊、満州に渡る。19 年土田敦子と結婚。抑留に耐え 21 年復員。22 年東北女子専門学校教授となる。

25年弘前大学助教授、34年青森県郷土作家研究会を設立、代表理事、機関誌「郷土作家研究」刊行。37年弘前大学教授。40年日本近代文学会青森支部を設立、評議員・支部長に就任。56年弘前大学を定年退官、名誉教授。八戸大学教授。58年青森県文化賞受賞。59年地域文化功労者表彰。60年八戸大学学長。61年青森県褒章受章。平成2年八戸大学学長退官、名誉学長。5年青森県近代文学館初代館長、10年に退任。

青森県郷土作家研究会は月1回の例会を発表や問題提起の場とし、埋もれた郷土の作家を掘り起こし研究者が育った。青森県近代文学館初代館長として基礎を築き「青森県作家の断簡零墨にいたる全資料を青森県近代文学館で見ることができ、それが青森の文学館のあり方」と、資料収集や保存にその長年の研究成果を発揮した。

戦争がその生涯を創作から教育・研究へ向かわせた。時流にこびず嘘を書かなかつた葛西善蔵の研究に心血を注ぐ小山内もまた、善蔵が好んだ「禅林句集」の「碧落ノ碑ニ贋本無シ」に通じる生き方に徹した。一字一句をゆるがせにしない書誌学者・文芸評論家である小山内は、本県の文芸評論家柳田泉、板垣直子の道を継承した。

著作『近代諸作家追跡の基礎』（昭和56年11月 津軽書房刊）。編著『福士幸次郎著作集』上巻・下巻（昭和42年3月 津軽書房刊）。『葛西善蔵全集』全3巻、「別巻資料篇」（昭和49年12月～50年10月 津軽書房刊）。『今官一作品』上巻・下巻（昭和55年8月 津軽書房刊）。『大塚甲山遺稿集』全7巻（平成11年11月～平成17年3月、上北町文化協会刊）の監修。「国文学解釈と鑑賞」第65巻4号（平成12年4月）葛西善蔵特集号に「この人に聞く 葛西善蔵の魅力」を掲載など、その他多数。

3、資料紹介

○小山内時雄歌集『若き日の巡礼』

図書

1960(昭和35)年7月1日

130mm×115mm

短歌に熱中した昭和8年 18 歳より同 11 年の作品 48 首を収め、写生のきいた鋭い感覚の歌集。「新万葉集」の入選歌2首が光る。頁ごとの版画のランプは短歌に遍歴した青春の自画像を象徴し、美しい豆本で限定 50 部。和紙摺りの文字と絵は装幀者の蘭繁之の版画。

○『近代諸作家追跡の基礎』

図書

1981(昭和 56 年)年 11 月 30 日

230mm×170mm

弘前大学退官の記念出版。年譜(葛西善蔵・福士幸次郎)・著作年表(紅緑・雨雀他)・雑誌細目・資料翻刻の4部構成で発表誌紙の現物を自分の眼で確かめた実証的研究の集大成。中央と地方所在の資料があいまって文学史の位相解明になるという実践的大作。